

今回の講演会で得たことや印象に残ったこと、今後実践し、目標としていきたいこと等を記入してください。

出会いやふれあいをより豊かに、多くしていくことで差別がなくなっていくことがわかり、保育士としてできることを考えていきたいと思いました。子どもたちは、すべての大人や友だちから愛されていて、とても大切な存在であることを子どもとの関わりから伝えていけるようにしたいです。

「差別がなくなっていくように差別を遠いものと考えず自分自身に引き寄せていく。」この言葉がとても印象に残った。差別問題となると先入観で難しい、関係ないなどってしまうかもしれない。しかし、いつどこで自分が関わるかわからないので自分から学んで行き正しい知識をもつことが必要だと考えた。今後自分の中に正しい知識の芯をもち、どのような関わり方が正しいのか、いいのかを考えながら、保育を実践していきたい。

3つの視点の中の「正しく学ぶ機会を持つ」の中で、「わかることは変わる事」という言葉があり、正しい情報や教育の大切さを感じるとともに、自分事としてこれからも学びを深めていきたいと思う。

図書館では3年前に本の中のページに差別落書きを発見して対応した経過があると引き続きしました。今もなお残念ながら差別意識は残っているとの認識に立ち、毅然とした態度で差別に立ち向かいたいと考えております。

曖昧な情報からくる不安や、利害関係での人間同士の傷つけあいが起こってしまうことを知った。人権とは「幸せの追求」であることを常に思い、難しく考えずに、日々の中で一人ひとりの人権が保障できるように自分にできることは何かを考えていきたい。

差別的な発言や、行動をなくしていくには、根底にある先入観や思い込みをなくしていくことが大切であるとおっしゃっていたことが印象に残っている。

そのために、このような人権問題に関心を持ち、正しく学ぶ機会を自分からつかんでいきたい。

「人としてしてはいけないこと」①人の命を傷つけたり、殺める②人のものを盗む③嘘をついて人を欺く　こんな社会になると人権侵害が起こる。私たちは一人一人が大事にされているか、情報が公開されているか、常に注意していることが大事。という言葉が印象的でした。

今回の講演会では、講師の先生の子ども時代、校長時代、大学教授である現在の実体験のお話が、やはり印象に残りました。

同和問題をはじめとする人権問題を解決するために、先生がおっしゃったように①素敵な「出会い」や「ふれあい」を豊かにすること②くらしを通じて自分自身に引き寄せること③正しく学ぶ機会を持つことを、市職員として実践していかなければならないと思います。

差別はなぜ起きているのか、どのようにすれば問題解決につながっていくのかなど見通しをもつことで、行動に移しやすいと思いました。いろいろな人との出会いが自分の考えや、偏見もなくなってくると思いました。地域の人たちと関わりを深めながら、自分たちにできることを一緒に考えていきたいと思えます。共感、親近感、好感を持ち、また、もってもらえる職員でありたいと思えました。

人権問題については、今の自分の認識ではまだまだ勉強不足なことも多いので、前の質問の欄にも記入しましたが、様々な人権問題について学びを深め、自分の言葉で人に伝えられるようにしていきたいです。

知識を高めるとともに、相手の方の事や関係されている方の事を考えて話しができるようにしていきたい。

今回の講演会で、明石先生から「同和問題は解決する」「マジョリティーの意識が変わると社会が変わる」というわかりやすい言葉で展望を伝えてもらったことで、意識が高まりました。

人にはそれぞれの個性を尊重しながら対応し、また、人権については常に意識をしていかないと薄れてしまうため、今後も繰り返し学び人権意識を根付かせていきたいと思う。

3年前のコロナに対する恐れも、正しい理解と情報によってWithコロナに変化したように、「差別は必ずなくすことができる」という言葉が印象深く、子どもたちと関わる自分に力強い励ましをいただいたと感じた。引き続き生きる力につながる保育実践を研究する。

人権問題をよく理解したうえで、相手の考えを共感しながら接していくことを大切にしていきたい。

同和問題は解決できるという展望をもって、熱く臨まれている明石先生にいつも感銘します。これからの子どもたちがつらい想いをしないよう、明るい希望をもって足もとから、自分の身の周りから実践していきたいと思います。

”クラスの中で勉強に遅れがある子や心身に障害がある子、家庭に悩みがある子を含めるみんなが「笑顔」ならOK!”という言葉が印象に残り、みんなが保育所楽しいと思えるクラスを作りたいと思った。

コロナ渦の中で、新たな人権問題が起こっていますが、私たちにできることとして、時代は変わっていきませんが正しい知識をもつことが一番大切であると感じました。自ら学びに行く姿勢が大切であると思います。これからも学んでいきたいと思います。

部落差別は必ずなくすことができるという明石先生の強い言葉が心の残りました。差別をなくすためには、一人一人が意識を変えることで社会が変わるということ。差別を受けたものは誰よりも深い思いやりの気持ちをもてる、だからこそ差別される側、する側ではなく、誰もが幸せに暮らせる社会であるように共に生きれる人でありたいと思いました。

今回の講師の方は、講演参加者を飽きさせないように、随所に一息つける話も織り交ぜつつ話をして頂いたので、最後まで興味を持って講演を聞くことができた。

人権問題を解決するためには展望と見通しが必要という言葉が印象に残っています。セミナー等の開催を担当していますが、展望と見通しを持って仕事ができているかと考えた時に、現段階においてはできていないと感じました。今後は、展望や見通しを考えながら職務にあたりたいと思います。

スーパーマーケットに売られている人気の大根とそこでの女性客との会話を同和問題に置き換えて分かりやすく説明されていたのがとても印象に残りました。大根が人気のある理由は値段が安い・味がおいしい・農薬を使っていないからである。しかし、もしこの大根が同和地区で育てられ採れた野菜と買い手が知るとどうであろうか。大根を買う際には、大根の育った場所で買う買わないを決めるのではなく、中身を見て購入するはず。人間も同じく、外見で判断するよりも中身で見る大切さがあると思いました。直感的にわかりやすく、非常に良い例だと思いました。

つらい思いしんどい思いをしたからこそ強く優しくなれる 私たちにユーモアを交えながらも大切なことをたくさん投げかけていただけたと思います。

「何事も自分事としてとらえること」「知識を積むこと」「様々な人に関わっていくこと」で偏見や壁をつくらない第一歩であると感じました。

この研修を通して改めて自分の人権意識を問い直すきっかけとなりました。また機会があれば先生のお話を聞きたいと思う研修でした。

ありがとうございました。

思い込みや先入観を無くす。電車で煙草を吸わないと同じで、人権問題もマジョリティが変わったら社会も変わると学びました。

人権は幸せ（健康、豊かさ、安心安全）の追求であること、3つのキーワードで伝えるなど、相手が理解しやすいよう工夫をされていることが印象に残りました。

先入観や思い込みは不適切な対応を招くため、常に正しい知識を得る機会をもつこと、事象発生時には関心を持って向き合い、しっかりと現状把握した上で対応するよう努めたいと思います。

毎日の仕事や暮らしを通して、皆さんとお互いの個性を認め尊重できる、豊かな関係性を築けることを常の目標としていきたいです。

祭の青年団長の話がでていたが、これは亀岡市内の祭りにも当てはまることであって女の子を参加させないことや神社の氏子でない地域の子供を参加させないことは今でもある。

しかし、これは人権侵害とひとくくりにはできる問題でもなく、その祭に古くからある伝統・慣習を大事に守ってきていることが多い。

そのため、祭の状況と世の中の動きを注視して今後あるべきかたちを関係者と協議していきたいと思う。

犬甘野児童館という人権の最前線の部署で勤務しており、地元住民と差別や偏見等について話をする機会も多いため、常にアンテナをはりながら、差別を見抜き、指摘できるよう業務を遂行していきたいと思います。

同和問題は解決可能な問題であるという言葉が非常に印象的であった。作られた差別だからこそ、自分達の努力でなくしていくことができるのだと強く感じた。

職場や地域や家庭など自分が属するところでの新たな気づきを深めていきたい。
今後もこういった研修に参加していきたい。

大変楽しく聞かせていただきました。明石先生の話をお聞かせいただき、保育をする上でまずはその子どもの背景をしっかり把握しておくことが大切であるということを改めて感じました。
また、正しい情報や知識を知ることが、差別や偏見をなくしていくことにつながっていくということをお学ばせていただきました。あっという間の時間でした。もっと聞きたかったです。ありがとうございました。

自分で直に経験することはとても重要で、これは偏見になっていないだろうか、自分でそう体験したのか、なぜ怖い、違和感、などを感じるのかなど自分の気持ちなどを改めて認識していきたいと思いました。

人権問題を解決するためには、素敵な出会い（本物に出会うこと、本当の情報や知識を得ること）やふれあいを大切にする、暮らしを通じて自分自身のこととして（身近なこととして）考える、正しく学ぶ機会を持つことが大切だということがわかりやすく学べて印象に残りました。

今回の講演会で、同和問題と人権問題の捉え方が改めてわかった。同和問題は、日本固有の人権侵害であること。だからこそ、なくすことができることもわかった。印象に残ったことは、「マジョリティが変われば、社会が変わる。」というところです。集団に流されてしまう弱さがあるのも、人間だが、だからこそ、正しい情報や知識をつけて、間違っていることは間違っていると表現、発言できるようにしたい。一人一人の意識を変えて、差別がなくなるように行動していきたいし、子どもたちと関わる時にも意識して一人一人を大切に安心安全に過ごすことができるように保育をしていきたいと思う。

「人権問題はもうないんじゃないんですか？こういった勉強をするから子どもたちは知って、差別をしてしまうのではないですか？」という質問に火事と消防車の話で保護者の方に対応されたこと。そして、先生の話に保護者の方が耳を傾けるということは信頼関係ができてきていることだと思った。やはり信頼できる職員にならなければいけないと思った。

次の世代で差別を生まないよう、自身の子供に今回の講習で学んだことを伝え共に考えたい。

行動に移さなければ、何も変わらない。躊躇せず、行動に移したい。

講師である明石一郎さんが話すことにおいて、まずは聞く側の心を引き付けるところが内容関わらず素晴らしいなと感じた。

「チームワーク、フットワーク、ネットワーク」、この3つのワークを持って人権問題解決に向け取り組んでいきたい。

とても興味深く聞かせていただきました。同和問題について差別は無くなると断言されていて、昔は電車内でタバコを吸っていて、今は吸っていないことを例に話をされていたところが印象深かったです。差別することが非常識であるという当たり前のことが、実際に当たり前になる社会になればと思います。

人権問題といえば、明石先生が言われたように暗い・堅苦しい・怖いと感じてしまう。でも、そうではないということ、考え方やとらえ方により様々であるが、身近にあることから解決したり、職場内でも話したり語り合ったりする時間を大事にしていきたいとおもいました。

差別を受けた人だけでなく、皆が差別をなくそうという同じ目標を持って行動すると、最終的には日本から同和差別はなくなると思うとの話しが印象的でした。同和問題だけでなく、世界にも日本にも様々な差別があり、それで嫌な思いをしたり苦しんでいる人がいることを忘れてはいけないと改めて感じました。

「子どもの暮らしに寄り添う同和教育をしてきた」大事にしてきた点を今もこれからも大切にしていきたいと思います。本当の出会いとふれあいで、人間関係を豊かにし、自分に引き寄せ、正しい情報と学ぶ機会に参加したいと思います。

人権問題は人間が作り出したものであるため、なくすこともできる。みんなが正しい知識を付けて、正しいことが言えれば、その状態が当たり前（常識）となり、人権問題はなくなると学びました。

自分でどうしようもできない差別に対して、前回の皆既月食から現在に至る400年まで残念ながら延々と続いてきた事実が驚くが、他者に対する住む地域の優越感など日本人のある意味陰湿なマインドにフィットしたため、ここまでになったのかと思う。本当に終わらせないといけない問題であると昭和世代として改めて思った。

余談ですが講師の方の話しぶりは核の話聞いてもらうのに、ダジャレを入れたり、マジックを試みたり、奥さんの話をしたりで本当に多芸で飽きさせず、素晴らしいなと感心しました。

こどもたちの現実や大学の学生の話など教員の経験からのお話は、とても心に残りました。事実や体験は何よりも説得力があります。「①素敵な出会いやふれあいを豊かに②くらしをつうじて自分自身に引き寄せる③正しく学ぶ機会をもつ」ことを実践していきたいと思います。

400年前の皆既月食と今年の皆既月食を見る人間の捉えの違いは、正しい情報があるからであるという話が自分のなかにすんと入ってきました。自分の中にある差別心（偏見、思い込み等）に向き合い続けていきたいと思います。また、子ども達自身の人権と関わる力を育てていきたいと思ひますし、そのためには自身の人権感覚を磨くことだと考え、取り組んでいきたいです。

印象に残ったことは、『同和差別は人が作ったものなので必ず無くすことができる』という言葉です。

人は潜在的に、“他人より自分”という考えがどうしてもあると思います。また、今年の漫才のM-1のディスリ漫才のように周りのことが鼻に付いたり等することはあると思います。そのような潜在的なものを教育や知識で改善し傷つく人が無くなるように心掛けていきたいと思います。

人権を考える良い機会を与えていただきました。年に一度は、人権を真剣に考えることは必要です。自分ができることとして、差別のない明るい社会を作っていきたいと思います。

本人の努力や頑張り等と関係のないことで人間の「値打ち」を決めることが差別だと話されたことに共感した。

誰よりも人に優しくする人を育てたい。

「消そうとしないと火は消えない」また、「寝た子を起こすな＝ただ隠しているだけ」と気づかされました。今後においては、間違った知識、考え、先入観によって差別等に肯定的な意見を持った人たちに「正しい考え方」や「差別することはなぜ問題なのか」を伝え、差別のないかがやく亀岡市のまちづくりに尽力していく所存です。

講師の話された「問題を抱えた生徒（講師の実例）を置き去りにしない教育こそが教育」という言葉は、人権啓発全般に当てはまるものです。

このことを念頭に人権啓発の推進を図りたいと考えます。

時間外の講演会でしたが、講師の方の節々に入れる面白いお話もあり、退屈することなく拝聴することができました。内容は人権啓発課所属のため、知っていることや自分の考えに合致していることが多かったので、今後も時代や相手に応じた人権対応をしていきたいと思いました。

先生のお話が堅苦しくなく、親しみやすく、時間があっという間でした。人権を学ぶことは大事だと認識していますが、ただ学ぶのと「見通しと展望」を持って学ぶのでは確かに全然違うと思います。今後、一步先の「見通しと展望」を持って学んで行きたいと思います。貴重な時間をいただきありがとうございました。

たまに同和問題について知らない世代が多くなってきているので、学習しなければなくなるという意見を耳にします。このときどのように対応すればいいか難しいと思っていました。答えは簡単なことで、同和差別はいまも存在するから、必要なんだということでした。このことを伝え、理不尽なことがなくなり、みんながお互いを認め合うことができるよう意識を高くもちたいと思います。

目先の利益ばかりを追求するのではなく、人のために優しく、強くあろうと思いました。